

国際的研究に参加

田辺商業 生物部 磯の生き物調査



磯の生物を観察する田辺商業高校生物部の生徒
(5日、白浜町臨海番所崎の磯で)

田辺市文里、田辺商業高校(和田諒宗校長)の生物部が5日、白浜町臨海、番所崎の磯で生物の調査を行った。京都大学瀬戸臨海実験所の白山義久教授が世界に呼びかけて沿岸の生物を観察、比較している「NaGIS A(ナギサ)プロジェクト」のデータ収集に協力する形で実施された。

磯観察は、生物部に所属する生徒6人が参加し、同実験所研究員の加藤哲哉さんが指導した。同プロジェクトの統一したサンプリング方法に従って、高、中、低の潮帯に分け、1畝四方にいる生物を計15カ所で観察。海藻が占める割合や

貝などの生物の数を調べた。

このサンプリング方法は、生物を深く知らなくてもデータを集めることができるのが特徴。同プロジェクトでは、これらの収集データを、インターネットなどを通じて世界中の研究者と共有する計画。

この生物部の活動は、同高校が昨年度から参加している「日米教育委員会フルブライト・メモリアル基金(FMF)」のマスターティーチャープログラム(MTP)の一環。このほか、田辺市の会津川の水質調査を、周辺の小中学校に連携を呼びかけて実践している。

部長の芝崎修平君(16)は「生物は難しい。調べたいことがどんどん増える」と話していた。